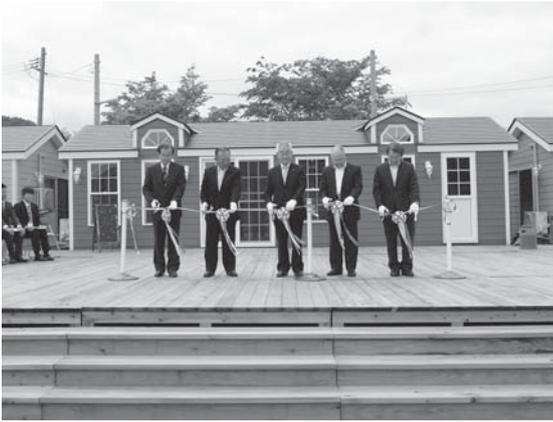


## 亀岡地区で「トレーラーハウス」オープン!

創業・就労機会や賑わい創出の拠点として、亀岡地区の多目的活性化広場内に設置された「トレーラーハウス」が5月27日にオープンし、記念式典が行われました。

このトレーラーハウスは、地方創生事業により、健康スポーツの拠点施設や観光の誘客資源として「サンドバレー施設」と共に整備されました。トレーラーハウスの利点は、施設設置費用の圧縮と運用経費の削減であり、就業機会の創出のために導入したものです。導入したトレーラーハウスは、飲食系2台、物販系1台の計3台となり、



▲トレーラーハウス前のウッドデッキで行われたテープカット

配置され、スポーツ観戦や利用者の憩いの場として広く利用できるようになっています。

地域住民など約50名が来場した式典では、菅家町長が「今後オープン予定のサンドバレー施設と共に賑わい創出の拠点としたい」と挨拶し、齋藤議長が「観光スポーツの拠点として皆さまの活用をお願いしたい」と祝辞を述べられました。その後、関係者によるテープカットが行われ、来場者とともにオープンを祝いました。

式典後には、事業者による紹介や内覧会が行われ、来場者は「気軽に集える場所ができた」と喜んでいました。



▲賑わいを見せるトレーラーハウス

## 「地域経済活性化フォーラム」の開催

只見町と東北財務局福島財務事務所の共催で、只見町における地域経済の発展及び活性化を図ることを目的とした「地域経済活性化フォーラム」が5月19日、只見振興センターで開催され、町内外から約70名が参加しました。

地方創生の取組みの一環として行われたフォーラムでは、開会にあたり菅家町長が「只見町では新しい人の流れをつくるために地方創生に取組んでいる。国道289号八十里越の開通を見据え、新潟県三条市に本社

のあるアウトドアメーカー(株)スノーピークと連携してアウトドア拠点整備に向けた基本構想を策定し、ユネスコエコパークが体感できるよう自然観光の魅力向上を図りたい」と挨拶しました。

発表では、只見町、(株)スノーピーク、東北経済産業局、(株)東邦銀行が事業を紹介しました。只見町からは、田子倉湖・只見湖・いこいの森キャンプ場といった地域の特色を活かし、ユネスコエコパークの魅力についてアウトドアを通して感じてもらうために実施する「アウトドア基本構想」について発表し、交流人口拡大に向けた取組みや、(株)スノーピークとの連携、滞在型交流観光の推進などを説明しました。そして(株)スノーピーク山井太社長の基調講演では、只見町の「アウトドア基本構想」の発展性と新たなキャンプの形態「グランピング」について紹介されました。この「グランピング」は、自らテントを準備する必要がなく、気軽に贅沢なキャンプを楽しめる新しい形態として注目されています。

今回のフォーラムでは、只見町の地域資源を活かした地域経済の活性化について、参加者とともに理解を深めました。



▲地域資源を活かした観光振興の方向性について意見交換されたフォーラム

福島と新潟を結ぶ重要路線

国道255号再開通イベント

冬期通行止めとなっていた国道255号「六十里越雪わり街道」が5月10日に再開通し、14日に歳時記念館前で式典が行われ、只見町や新潟県魚沼市などの関係者約50名が出席しました。

式典では雪わり街道を愛する会の目黒長一郎会長や菅家町長などが挨拶し、泉山口土木事務所より再開通までの概要が説明されました。その後、只見湖をバックにテープカットが行われ、再開通を祝いました。会場では、じゅうねん焼きそばやマトンケバブなど只見の味が販売され、山菜汁や特製まんじゅうが振る舞われました。また、六十里越の除雪作業の様子が写真展示され、来場者に紹介されました。



▲(写真/関係者によるテープカット)魚沼市の売店では、魚沼産コシヒカリのせんべいなどが販売されました

今年度の交流事業を確認

「ふるさと交流企画会議」を開催

5月12日、只見振興センターでふるさと交流都市である千葉県柏市と只見町の「平成29年度ふるさと交流企画会議」が開かれ、関係者16名が参加しました。

会議では、菅家町長が「柏市と只見町の歴史ある交流が、益々発展するようになりたい」と挨拶し、協議では両市町からイベント参加や学校給食の食材交換、山村教育留学生の募集についての交流内容が提案され、今年度の交流事業を確認しました。

会議終了後、柏市の方々には河井継之助記念館などを視察し、只見町の歴史や文化に触れました。



▲毎年只見町と柏市で交互に開かれるふるさと交流企画会議(来年は柏市で開催)

県内外の学校が只見町へ!

教育旅行の受け入れ始まる

県内外から修学旅行や林間学校など教育旅行で訪れる学校の受け入れが5月9日、仙台市立広瀬中学校の農家民泊を皮切りに町内で始まりました。

5月19日に訪れた仙台市立八木山中学校145名は、季の郷湯ら里で開村式を行い、農家民泊で受け入れる農家さんと対面しました。生徒たちは笑顔で農家さんに挨拶し、その後各農家で農作業や田舎体験を行いました。

今年度は5〜9月まで県内外から10校約800人(延約1200泊)が只見町へ訪れる予定で、南会津町や金山町と連携して受け入れを行っています。



▲湯ら里前庭で受け入れる農家さんと対面式を行う八木山中学校生徒の皆さん

開催10周年「100回記念」

布沢地区「ふれあい広場」を開催

布沢地区のお年寄りが集う地域づくりサロン事業「森林の里ふざわ・ふれあい広場」が4月14日に布沢集会施設で開かれ、開催10周年「100回目」を祝いました。

ふれあい広場は、「ふざわ楽しさと元気づくりのみんなの会」が高齢者の健康維持を目的に、平成20年3月から始まりました。今年の1〜3月までは、週1回集まり「いきいき百歳体操」のモデル地区としても活動してきました。

今後も開催200回を目指し活動を続けていきます。



▲(写真/100回目のふれあい広場に参加した皆さん)記念事業として披露された伝統芸能「塩ノ岐万歳」